

2016年11月30日（水）品川区議会議行革特別委員会 記録

委員会は、10時スタート。（⇒閉会は13時過ぎ。休憩なし）

- 国から払い下げられる小山台付近の23,000㎡土地の内、区が取得する5,000㎡の用途について・・・
 - 補助金、助成金の交付の流れと検証について・・・
- などが、討議された。

11時37分：羽田空港問題がスタート

① 意見書の案文について

「理解を得たものとして」を、削除

「遺憾」⇒「危惧をいただいている」に、変更

「協議の場を作り」を、削除

以上の修正で合意を得、本会議に提出することになりました。 ⇒添付参照

② 平成28年 品川の会の出していた11号及び、八潮の会が出していた12号の陳情書は、共産党を除く他の会派の意見により『継続』

③ 安藤たい作委員の質問に答えて

【都市計画課長】

- まだ、具体的な脚下げの位置について聞いていない。ルート案決定していないし、航空機によっても違う。一定程度は推測できる。国に求めていく。
- 落下物予防、最善を尽くすしかない。十分点検して頂くしかないのかな。

【環境部】

質問：新ルートで環境影響「限定的」は本当か？区内の上昇ないか？

回答：ICAOの基準に則っている。アセスメントにあたるのかは、法や条例でできないとの回答を得ている。それに準ずるものできるのかどうか確認する。飛んでいる前より高くなるのではないか。しかし、数値として現れてくるのかどうか難しい。「やってほしい」と申し伝える。国がやらないなら区がやるかといえは。事業主体は国なので・・・

【都市計画課長】

質問：墜落事故の事例を挙げた上で、「対策は？」

回答：対策については、これから。予測可能な限りやる。

【環境部】

質問：五反田・目黒駅・大崎・八潮の、高度・騒音についての質問

回答：「大井町300m・80デシベルなので、目黒駅300mよりは上。五反田750メートル」と、のたまう。

これには、さすがに傍聴席ざわつき、「エ～ッ！」

これに対し、公明党若林委員、鈴木議長に「何とか言えば」とばかりに、こちらを指さす。

《間違った答弁を黙って聞いていることはできない！！》

《それぞれの数値が出てくるか期待したのに、何も分かっていないこと露呈》

「大井町 1,000 フィート 80 デシベル、五反田 455 メートル」と改めて答弁。

【都市計画課長】が答弁を引き取る形で、「ゼロ件を必ず目指してもらおう。」

「A・C 滑走路、品川区内各々の駅のデータ、再度確認していく。」

質問：都心ルートでは海上脚下げできないが？

回答：「細心の注意を払って頂く。十分点検して頂くしかない。過去の事例を基に原因分析。」

質問：教室型説明会、どうしたら行われるのか？

回答：「国の方はオープン型でよいと考えている。ワークショップ型説明会行われているが、区として引き続き求めていきたい」

<民進党阿部委員から>

「大気汚染について、飛ぶ前と飛んだ後、比較できるように」

概ねの要点は以上ですが、新しい情報は全く得られず、いつもの繰り返し「～していく」「確認する」ばかりでした。

役人と委員は、体をサポートする素晴らしい椅子なのに、傍聴席は、腰をサポートしない椅子なので、腰が痛くなるばかりでした。